

米国移民の腸内細菌叢、西欧化により肥満リスク上昇の可能性

米国の移民の多くが、移住後に肥満などの代謝性疾患を発症することが知られているが、その原因については不明である。腸内細菌叢は代謝性疾患の発症に関わっているが、米国への移住が腸内細菌叢に及ぼす影響について評価した研究はこれまで実施されていない。本研究では、移民の腸内細菌叢と肥満との関係について検討した。

対象は、タイに居住するモン族とカレン族、そして米国に移住した両族およびその子どもの合計 514 例、そして米国で生まれた欧州系米国人 36 例を対象とした。対象者の便検体について DNA シークエンスを実施し、腸内細菌叢の変化を調べたところ、米国への移民の腸内細菌叢に急速な変化がみられ、腸内細菌叢の多様性は減少し、機能が変化していた。また、移住年数の経過とともに腸内細菌叢への影響は大きくなり、肥満と関連することが示された。

今回の結果から、米国への移民では腸内細菌叢の多様性や機能が変化し、西欧化することがわかった。腸内細菌叢の西欧化は肥満などの代謝性疾患のリスクを上昇させる可能性がある。

出典：Cell. 2018 Nov 1; 175(4): 962-972. e10.